

国を守る若い力 自衛官

■応募資格…18歳～25歳
未満の男子 ■職種…陸・海・空自衛官 ■身分…特別職の国家公務員 ■問合せ…自衛隊加茂募集事務所 (☎0256②5222) へ。

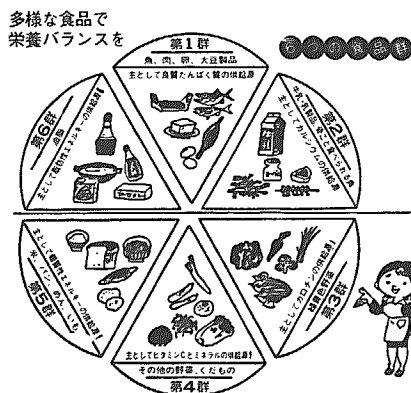
作業停電 (3月)

▶24日(月)午前9時～正午
国道116号線沿いの地区

暮らしの健康

新シリーズ(12)

文責/保健婦



●岩室村食生活改善推進委員

委員名	住所	委員名	住所
藤 藤子	湯上	五十嵐 妙子	間瀬2区
喜美子	和納7区	鳳気至 玄	間瀬3区
野 照子	和納7区	坂 千代美	久保田
伊 藤 幸子	和納6区	高 橋 玲	和納12区
坂 爪 真理子	油島	高 橋 ノブ子	和納10区

おめでた

氏名 前住所 新住所
五十嵐 永明 橋本
(江川) 典子 三条市 橋本

うふこえ

氏名	誕生月日	保護者	住所
五十嵐 麻里子	1.11	治作	石瀬
坂田 麻衣子	1.12	雄二	栄
松原 唯	1.14	一征	油島
岡島 輔	1.18	透	高畑
田島 大克	1.24	満	西中
濱村 浩	2.7	一雄	間3
朝妻 浩	2.8	芳雄	西船越
平松 洋	2.12	省吾	和

おめでた 61年2月
おくやみ 20日まで

おくやみ

氏名	年齢	死亡月日	世帯主	住所
本間 タキ	76	1.22	金一郎	間7
高綱 孝邦	59	1.25	留吉	間1
大岩 ヨキ	86	1.31	隆雄	和5
竹内 キノ	73	2.1	久松	猿ヶ瀬
亀山 トセ	85	2.5	彦治	原
早川 シヅ	90	2.6	岩男	和3
石塚 キミ	82	2.6	……	間3
鈴木 シマ	78	2.12	貞男	橋本
小川五郎治	84	2.12	毅	和5
本間 喜一	52	2.13	ヨシノ	石瀬

健康づくり

今月は食生活改善推進委員のみなさんの活動についてお話しします。

「健康」はバランスのとれた食生活から

健康—わたしたちにとってかけがえのないものです。この健康を維持するためには、食事の栄養バランスのよいことが第一といわれます。健康づくりを食生活の面から推進するため、本村には食生活改善推進委員が十人います。

岩室地区から三人、和納地区から五人、間瀬地区から二人が選ばれています。

「健康づくり大学(巻保健所主催)」での経験をもとに、バランスのとれた食生活をみなさんに知ってもらうため、いろいろな活動を行っています。

昨年四月からの主な活動についてお話ししましょう。

▽伝達講習会：保健委員と協

これらの事業推進には栄養士の力強い指導があることはもちろんです。

また、脳卒中後遺症者の集いでは、昼食づくりを行って大変喜ばれています。

そのほかに、間瀬地区公民館の高齢者学級での調理実習やひとり暮らし老人を迎える会への参加など、少しずつではありますが、会の活動の輪を広げよう、と努力しています。

現在のところ、まだ活動が定着していない部分も多くありますが、少しでもみなさんの健康づくりの手助けができれば、と思っています。よろしくお願います。

農業センサス

農家人口はる割弱に

〈経営規模の階層化がさらに進む〉

国が五年ごとに実施している農業センサス(全数調査)の村内分の概要がまとまりました。昨年の二月一日現在で調査したもので、それによると農家人口はこの五年間に二十六人減り、村人口に占める比率は三割すれすれになりました。しかも経営の柱となる「基幹的農業従事者」は五十五歳以上が半数を超え、県内でも有数の本村農業も高齢化が急速に進んでいます。

総農家数は、五百七十八。五年前より九件(一・五%)減り、五十五年調査(二七・四%)、五十年調査(四二・六%)に比べ減少率は低くなったものの依然として減少傾向が続いています。そのうち専業農家は二九%、片手間に農業をする「第二種兼業農家」が五五・九%と圧倒的に多くなっています。

農家人口は、三千七百七十一。前回調査より〇・八%減で、この結果、村の総人口に占める比率は三一・六%(前回四二・三%)となりまし

●専業・兼業別農家数、農家人口 (各年2月1日)

年次	昭和40年						
	45	50	55	60			
総数	1,208戸	1,067	748	587	578		
専業・兼業別	専業	206戸	75	22	16	17	
	兼業	1種	440戸	442	365	268	238
		2種	562戸	550	361	303	323
計	1,002戸	992	726	571	561		
農家人口	総数	6,773人	5,648	3,958	3,197	3,171	
	男	3,234人	2,682	1,891	1,567	1,560	
	女	3,539人	2,966	2,067	1,630	1,611	

ここでいう兼業とは、自家農業以外の仕事(従事日数30日以上または収入10万円以上)のことです。自家農業以外の仕事に従事した世帯員が1人でもいれば兼業となります。■第1種兼業…兼業のうち自家農業が主 ■第2種兼業…兼業が主(専業) 自家農業以外の仕事に従事した世帯員が1人もいない家

●経営耕地別農家数 (各年2月1日)

年次	昭和40年	45	50	55	60
総数(戸)	1,208	1,067	748	587	578
1ha未満	631	531	293	159	163
1ha～3ha	457	398	277	243	213
3ha～5ha	120	136	166	159	165
5ha以上	—	2	12	26	37

増加しました。六十五歳以上の老年寄りは三七・一%、二百四十八人もいます。

こうした高齢者が農作業できなくなったとき、本村農業は激変期を迎えることになりそうです。

規模拡大—農家一戸当たりの耕地面積は二・三畝(県平均は一・一七畝)。内訳は一畝未

満が百六十三(二八・二%)、一畝が二百十三(三六・九%)、三畝が百六十五(二八・五%)、五畝以上は三十七(六・四%)となっています。

総農家戸数が減っている中で三・七%増、五畝以上の農家も前回の二十六戸から三十七戸へ四二・三%の増加となっています。

農地を手放す(経営委託をする)農家が増えるとともに、それを集めて大規模経営を目指す農家が出てきたようです。五十五年調査と同様、経営規模の階層化がさらに進んでいることがわかります。

はなむけ



「卒業生諸君に、はなむけの言葉をひと言」というときの「はなむけ」は、門出する人への贈り物を意味します。漢字では「餞」または「餞」と書きま

「餞別」という漢語は、今なお使われています。

「はなむけ」はもともと「鼻向け」からきた言葉でした。平安時代の歌人紀貫之が、任地の土佐からの海路京都へ帰った際の旅行記「土佐日記」には、出発のとき「舟路なれど馬のはなむけ」と記されています。

当時は旅行者を見送るとき、目的地のほうへ馬の鼻先を向けて、前途の無事を祈る風習がありました。また、見送る人が馬の鼻を自分のほうへ引き寄せて、早く帰ることを祈ったとする説もありました。

後に「馬のはなむけ」は、旅立つ人に金品や詩歌を贈ったり、送別の要を催すことを指し、「はなむけ」は贈り物そのものを言うようになりました。

祝儀の金品を「はな」と呼ぶのは、進物を花の枝につけた風習からとされる言葉。「はなむけ」とは関係がないようです。